

愛知学院大学薬学会誌

Volume 17
January 2025

愛知学院大学薬学会

**THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN**

ISSN 1882-9511

愛知学院大学薬学会誌

第 17 卷 2025 年 1 月

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

Volume 17 January 2025

愛知学院大学薬学会
THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

巻 頭 言

その先にあるもの

薬学部教務主任 山本 浩充

今年もメジャーリーグでは多くの日本人選手が活躍し、特に大谷選手はホームラン 50 本、50 盗塁を達成し、最終的に、54 本、59 盗塁に至り、毎日ニュースをにぎわせた。常に高みを目指し毎年新たな記録を打ち立てていく姿に、非常にワクワクさせられる。ただ、ニュースで触れられることは少ないが、その裏にはより高い目標を目指した日々の絶え間ない努力が行われているはずで、ここが一番重要であると考えている。

さて、皆さんは日常生活や勉強、仕事の際に、今、自分のしていることが将来的にどのような成果につながっていくのかを考えて行動しているであろうか？学生時代に多くの時間をスマホのゲームに費やしてしまったという人も多いと思う。場合によっては課金などをして浪費までして。そのゲームが廃れ、アプリを開かなくなったとき、そこには何が残るであろうか？友達よりも高得点を取った優越感も、高いスキルをもったキャラももはや何の意味もなさない。単に時間を浪費してしまったという評価と虚無感が残るだけである。我々、大学教員や卒業研究に携わった学生も研究者として常に新しいことを発見し、学術論文などに投稿し、社会に公表していく。私が専門としている製剤・製剤工学という分野は基礎研究の中でも出口に近い事象を研究対象としていることもあり、これまでも医薬品ではないが研究成果を社会実装し、化粧品や医薬部外品、添加剤としていくつか市販されるに至ったものもある。また、古い論文に掲載された処方に基づいて院内製剤として使われていた製剤について、いろいろ取り扱いづらい点が指摘されていた製剤に対し、原因を突き止め、改良処方を提案する論文が学術雑誌に掲載された。この製剤については使われる頻度や量が少ないこともあって、市販には至っていないが、ある日、施設訪問をした際に次のような経験をした。自己紹介で、所属と名前を伝えたところ、先の論文のコピーを手にして、作業が非常に楽になったということで、感謝の言葉とともに握手とサインを求められた。このような経験は最初で最後一度きりであるが、直接ユーザーの意見を聞いたのは初めてであり、研究を続けてきてよかったと実感できた。すべての研究が社会や他の研究者の役に立つ研究である必要はないかもしれないが、少なくとも一部の研究はインパクトのある研究に育ってくれとよいと常々考えている。ともすると、日常の業務に終わって先のことなどを考えることを後回しにしたり、考えることすら忘れてしまいがちになることもあるが、先を見据えて、コツコツ頑張ることが、自分が今取り組んでいることの先にあるものにつながるのだと思う。

—目 次—

・ 巻頭言

その先にあるもの 薬学部教務主任 山本浩充

・ 総説

一般総説

TRPA1 チャネルの機能進化 村木克彦、松原匡希 1

・ 寄稿

疾患病態学講座の歩み 鬼頭敏幸 20

・ 新任教員の挨拶と紹介

新任教授のご挨拶 武内智春 32

新任教員紹介 和田翔、鈴木瑠理子、溝口智輝、坂本京花 33

・ 学会報告

学会参加報告

第 52 回複素環化学討論会 川久保暢人 37

日本薬学会第 144 年会 渡部陽太 39

・ 医療生命薬学研究所報告

2024 年度医療生命薬学研究所組織および助成 42

第 11 回サイエンスフォーラム 要旨集およびプログラム 44

・ アルツハイマー型認知症におけるオレキシンの関与とオレキシン受容体拮抗薬の効果の検討

羽田和弘、大井義明（医療生命薬学研究ユニット） 46

・ プロセッシング過程で生成される microRNA の多様性とその機能についての解明

原敏文、横川慧（医療生命薬学研究ユニット） 48

・ 量子化学計算に基づく近赤外蛍光色素の戦略的創製と分子機能開拓

原田芽生（医療生命薬学研究ユニット） 50

・ 調剤薬局における患者フォローアップの評価

浦野公彦（地域連携研究ユニット） 52

・各種委員会報告	
令和五年度 国際交流委員会活動報告	55
米国薬学研修引率報告 渡邊法男、加藤文子	56
米国薬学研修報告 (A 班)	
江本鈴、森中阿紀、石川貴子、村岡倫、渡邊翔真	60
米国薬学研修報告 (B 班)	
林穂乃香、戎嶋みなみ、牧原宝来、松浦明里、松浦光、山田真幸	62
令和五年度 薬学部 FD 活動報告	64
令和五年度 生涯学習委員会活動報告	67
令和五年度 薬学セミナー報告	68
・講座紹介・2023 年の業績	69
・評議委員会便り	
令和六年度 愛知学院大学薬学会総会議事録	116
・薬学会会則および各種規程	125
・名誉会員一覧	141

広告協賛

編集後記